

令和6年度

「新編 新しい国語」活用のでびき 4

# 誰一人取り残さない 学びのために



6年P46 「イースター島にはなぜ森林がないのか」

ダイナミックな図版は、  
教材への意欲喚起にも！

● 単元末の「言葉の力」は、箇条書きと図解で示しています。

筆者の論の進め方をとらえよう  
イースター島にはなぜ森林がないのか

言葉の力  
論の進め方をとらえる

図解によって、直感的に理解しやすく！

● 単元の学習で最も大切な「言葉の力」は、色やマークを活用して視覚的に捉えやすくしました。

大切な情報がひと目で分かる

子どもの学びを妨げないために

106本の動画！

動画や音声などのコンテンツは、  
文字情報だけでは理解が難しい外国  
人児童の支援にも効果的です。



5年P118  
「問題を解決するために話し合おう」

● 動画や音声を使ったQRコンテンツを豊富に用意しています。動画には字幕機能が付いています。  
● 文字を読むことに困難を抱える子どもにとって、文字情報だけでなく、動画や音声学習の助けとなります。

文字情報だけでないサポートを

「絵本」のような入門期冒頭教材

●初めて開く国語の教科書。幼児期に親しんできた「絵本」に似たつくりで、入学直後の子どもたちを小学校の学習に迎え入れます。



1上表紙

教科書の表紙から冒頭教材へとつながります。



1上冒頭「きこえるよ」

表紙と同じ子どもたちがいる！青い鳥さんもいっしょだね。

ありさんがクローバーを運んでいるよ。どこに行くのかな。



幼児期に経験した手遊びを取り入れ、体を動かしたり、リズムを口ずさんだりしながら、学習が始まります。



「10の姿」を踏まえた四月教材

●四月教材群は、全て見開きで完結する、シンプルな構成です。入学前の学びから円滑に接続するように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を踏まえて編集しました。子どもたちが幼児期に育んできた資質・能力を見取りながら、小学校での言葉の学習の土台作りにつなぎます。

一年四月の一日の学校生活(例)

- 朝の会
- 読み聞かせ
- 音遊び
- 仲間作り
  - ・友達どうして自己紹介
  - ・名前を呼び合ってみる
- 校内探検
- 生活の中の言葉を考える
- 給食
- 帰りの会

生活科を中心としたスタートカリキュラムに無理なく位置づけられる活動です。



9

8

1上P8「よろしくね」

「よろしくね」における「10の姿」の例

10の姿 道徳性・規範意識の芽生え

・友達の気持ちに共感し、ルールを守りながら活動に取り組もうとする。

順番に自己紹介するんだよ。

10の姿 言葉による伝え合い

・言葉を通して、小学校の先生や友達と新たな人間関係を築こうとする。

好きな遊びが同じだね。休み時間にいっしょに遊ぼう。よろしくね。

親しみやすいイラストが、子どもたちに寄り添います。



1上P14「こえをとどけよう」

一年生にとって習得が難しい特殊音節や助詞の学習。学年が上がっても定着が不十分な子どもたちがいます。学習の初期段階で確実な習得を図るために、特別支援教育の知見を生かして開発された「多層指導モデルMIM」の指導法を取り入れられました。

特別支援教育の専門家による校閲を、全ページで実施しています。



先回りの支援①  
特殊音節の指導

● 促音(「っ」)や長音(「っ」「っじ」)、拗音(小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」)など、文字と音が一對一で対応しない特殊音節は、平仮名の習得で特につまずきやすいといわれます。

● 記号(●など)による**視覚化**と、手を叩いたり握ったりする**動作化**により、多感覚に働きかけることで、音節の仕組みを理解して表記につなげやすくしています。

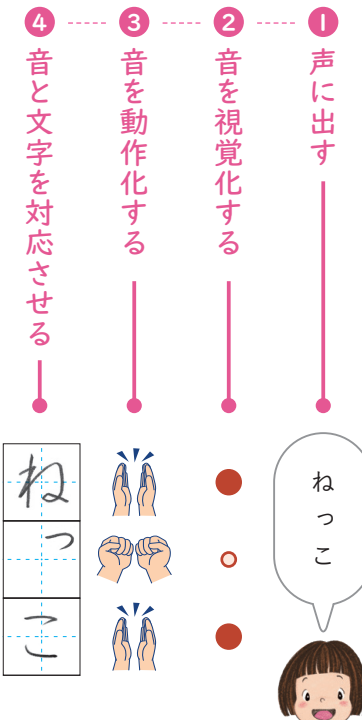


1上P58「ねことねっこ」

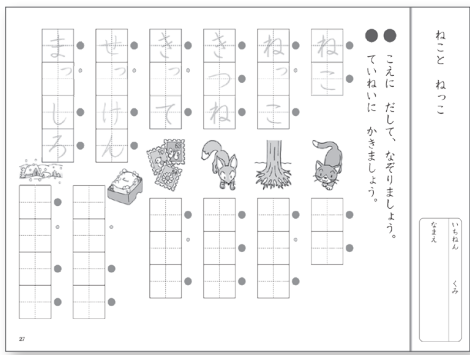


MIMの動作を分かりやすい動画にしました。ご覧ください。

基本の流れ



特殊音節に関する全教材に動画を用意しました！



教師用指導書には、スモールステップで取り組めるワークシートを用意しています。

● 促音や拗音を判別しづらい子どもたちのために、入門期では従来よりも文字を小さく示しました。

● **新** どっこいしよ。

● **旧** どっこいしよ。

\*指導書は制作中のため、内容・仕様ともに予告なく変更になる場合があります。

先回りの支援②  
助詞(は・を・へ)の指導

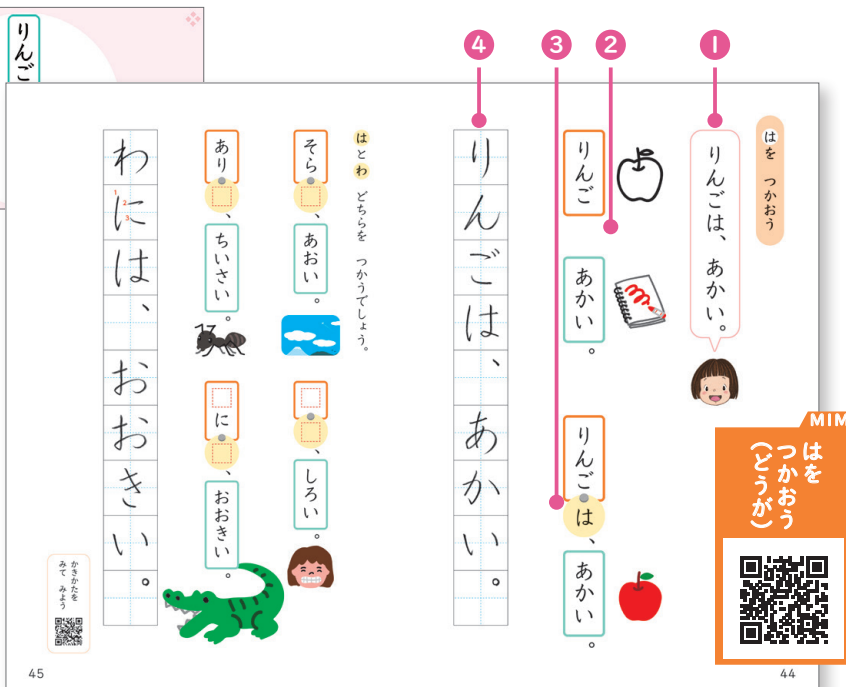
● 声を出して文を捉える

● 文から助詞を取り除いて示す

● 助詞がどこに入るかを考える

● 書いて文を捉える

基本の流れ



練習も、スモールステップで！

1上P44「『は』をつかおう」

● 助詞アニメーションを新たに用意しました。授業だけでなく、家庭などでも視聴できます。

助詞で「先回りの支援」が必要なわけ

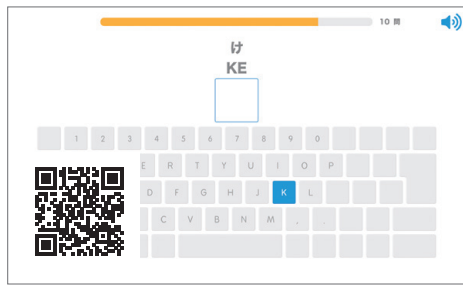
「助詞(は・を・へ)」は、特殊音節と同様に、多くの子どもがつまずきやすい学習の一つです。特殊音節が語の読み書きの基本なら、助詞は文の読み書きの基本といえるでしょう。

経験的な反復による習得を待っている間にも、児童はさまざまな場面で文章を読んだり書いたりすることが求められ、そのたびに失敗体験や誤学習が積み重なっていきます。読み書きに対する小さなつまずきから、文章を書いたり文章を読んで理解したりすることが関わる多くの学習活動への意欲低下、自信喪失に至ってしまう可能性があるのです。



明治学院大学教授 海津亜希子

低学年から使えるタイピング練習ツール



- 日常的な言葉から国語の学習で使用する言葉まで幅広く、学年段階に合った例語を提示するタイピング練習のQRコンテンツです。(一、二年は、サイトからのアクセスのみ)。
- 単なるアルファベットの入力から、五十音、単語、短文と、ゲーム感覚で習熟度に応じた練習ができます。

文字の書き方は、筆順アニメーションで

- 書くことに困難を抱える子どもの中には、一画一画書き進める過程を理解することが難しいという場合があります。
- 筆順をアニメーションで表したQRコンテンツで書字過程を確認することで、文字を書く力の向上につながります。



書く前につまづかせない、左利き対応

- 左利きの子どもが無理なく鉛筆の持ち方を理解できるように、左手で鉛筆を持つ写真を新たに掲載しました。QRコンテンツの動画でも確認できます。



書写との連携を図って、写真や動画は「新編 新しい書写」と同じものを使用しています。



1上P10「たのしくかこう」

エラーモデルで課題を捉えやすく

- 「情報のとびら」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で、エラーモデルを取り入れた単元導入を図っています。
- エラーモデルは、学習課題を分かりやすく捉えることができ、ため、支援を要する子どもたちも学習に参加しやすくなるなど、インクルーシブ教育の観点からも有効です。

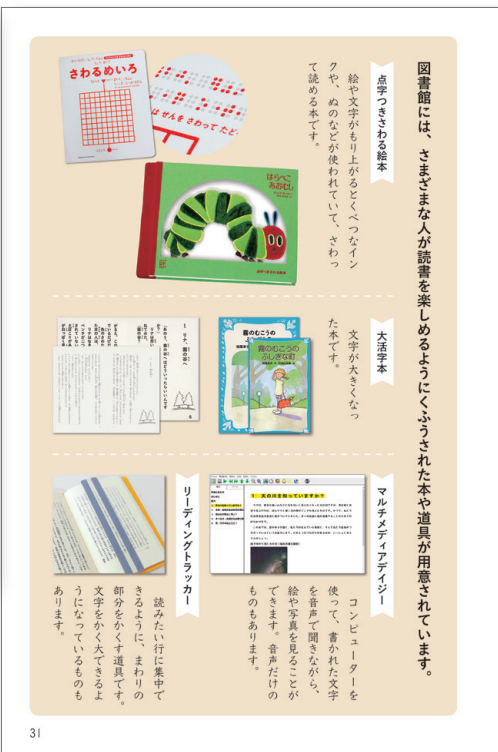
4下P92 情報のとびら「理由をぎんみする」



3下P94 書く「クラスの思い出作りのために」

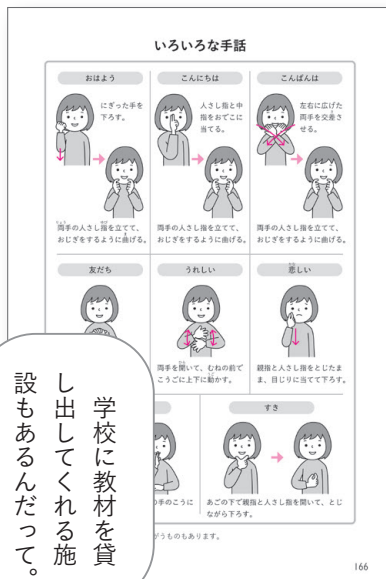
誰もが、情報にアクセスできるように

- 社会の多様性を知り、誰もが必要な情報を使いこなし、さまざまな方法でコミュニケーションが図れるよう、適宜資料を紹介しています。



4上P28「図書館へ行こう」

3下P166「いろいろな手話」



6年P20「社会教育施設へ行こう」